

第2部 市の現状と課題

第1章 市の現状と今後の見通し

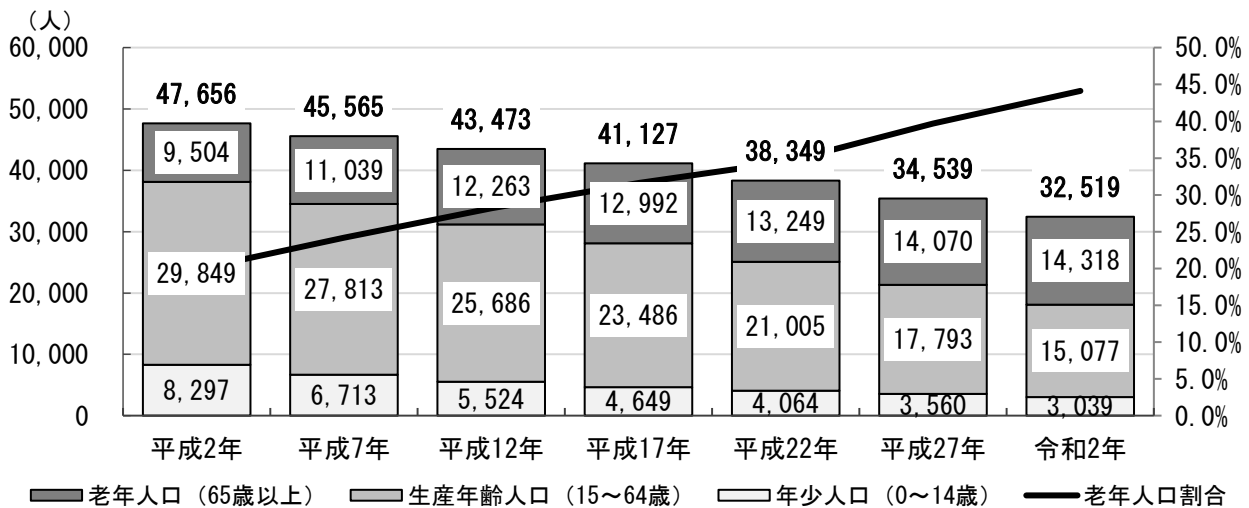
(1) 統計データからみる市の現状と課題

① 少子高齢化の進行

平成2年から令和2年にかけての長門市の人口の動きをみると、一貫して減少傾向が続き、令和2年には32,519人となっています。高齢化率は年々高くなっており、今後も人口減少及び少子高齢化が進展していくことが見込まれます。

また、国立社会保障・人口問題研究所の将来人口の試算によると、人口減少抑制に対する取組を何も講じなかった場合は、2065年(令和47年)に本市の人口は令和2年の32,519人の30%、10,055人まで減少します。

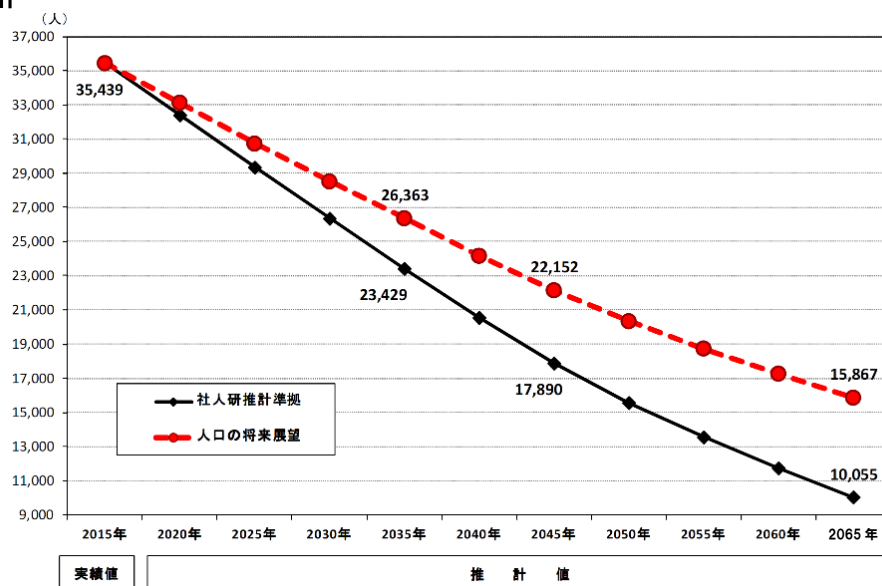
■ 年齢3区分別人口の推移 (国勢調査)



資料：国勢調査

※総人口には年齢不詳者も含むため、各年代の合計値と総人口は一致しません。

■ 人口推計

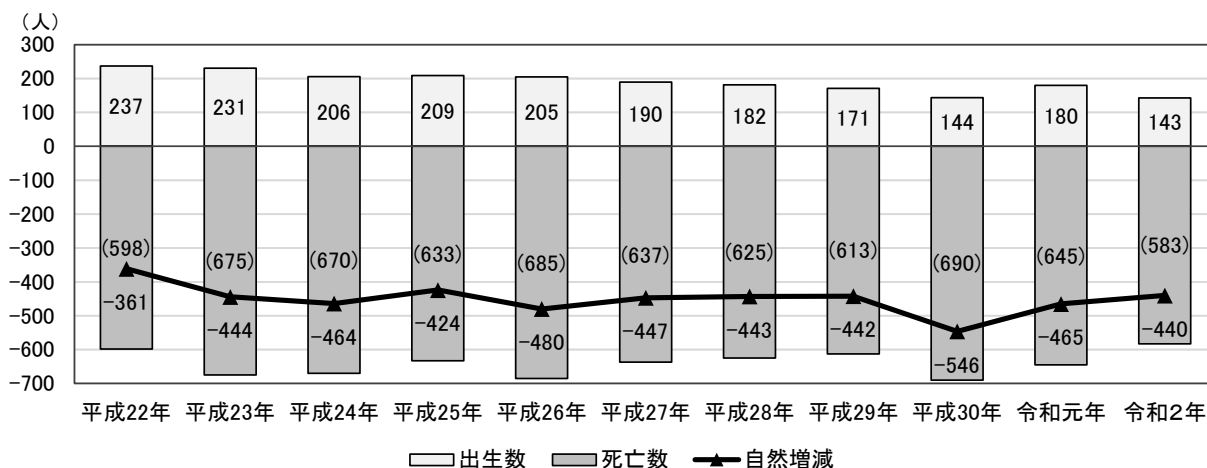


資料：長門市人口ビジョン

出生数から死亡数を引いた自然増減をみると、平成22年以降、死亡数が出生数を上回る自然減で推移しています。

出生数は、平成26年までは200人を超えていましたが、平成27年以降は100人台で推移するようになっていきます。死亡数をみると、平成23年から平成29年までは600人台で推移していましたが、平成30年をピークに令和元年以降は減少が続いています。

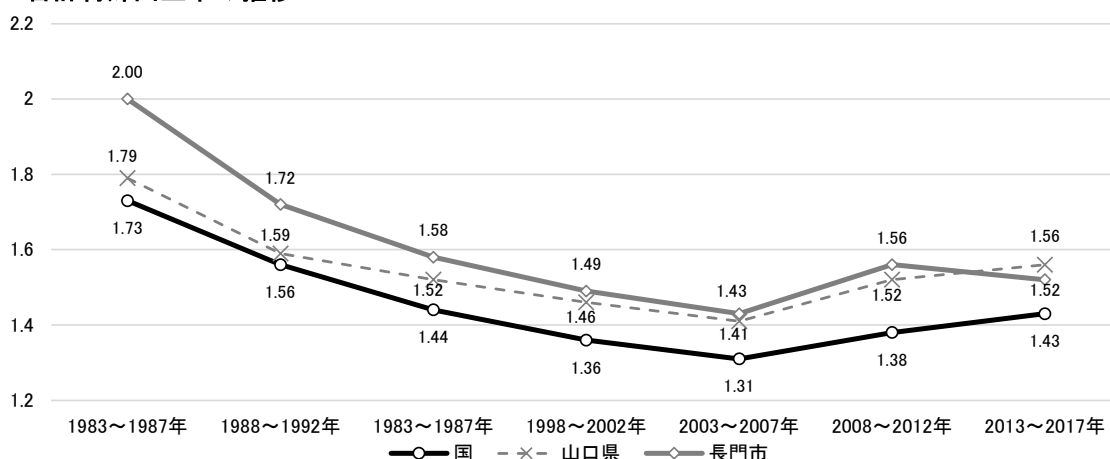
■出生数と死亡数からみた自然増減推移



資料：住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数に関する調査

本市の合計特殊出生率は、1983年（昭和58年）から2007年（平成19年）までは、2.00から1.43まで一貫して減少していましたが、2008年（平成20年）から2012年（平成24年）時点では1.56に増加し、国や県の水準を上回っています。しかし、2013年（平成25年）から2017年（平成29年）は1.52に減少し、県の合計特殊出生率を下回っています。

■合計特殊出生率の推移



資料：人口動態保健所・市区町村別統計

【合計特殊出生率】

15歳～49歳の女性が生涯に何人の子どもを産むかを表す数値。人口を維持するために必要な率は2.07とされている。

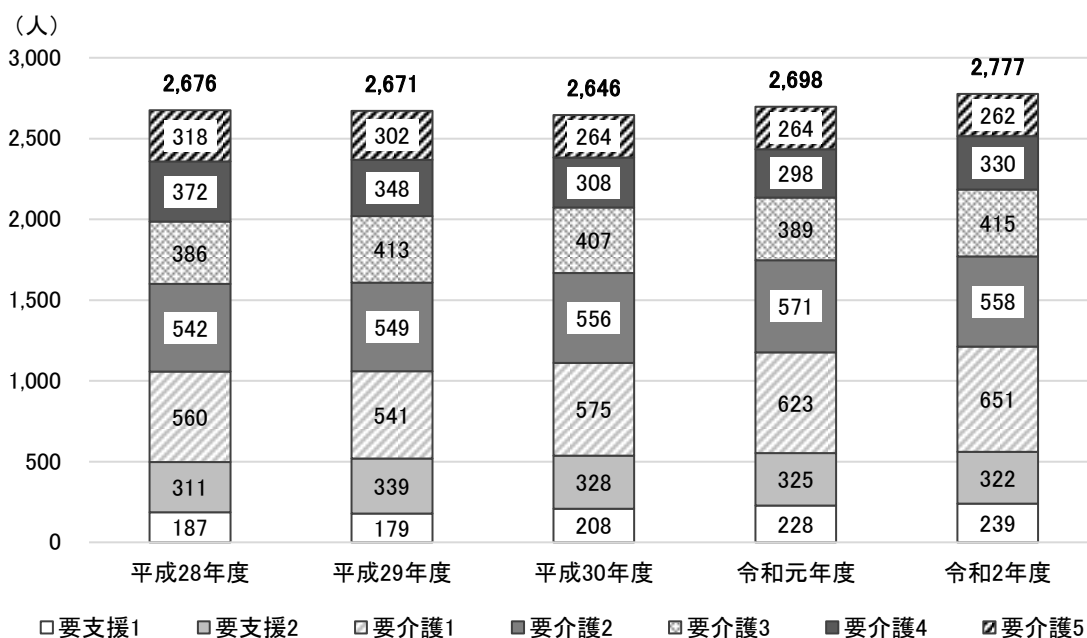
市区町村別の合計特殊出生率については、出現数の少なさに起因する偶然変動の影響を減少させ、地域間等の比較ができるようにするため、より安定性の高い指標を、ベイズ・モデルを適用して算出している。

②高齢者の状況

要介護認定者数は、増加傾向で推移しており、その中では、要支援1、要支援2、要介護1の軽度認定者は概ね増加傾向にあります。

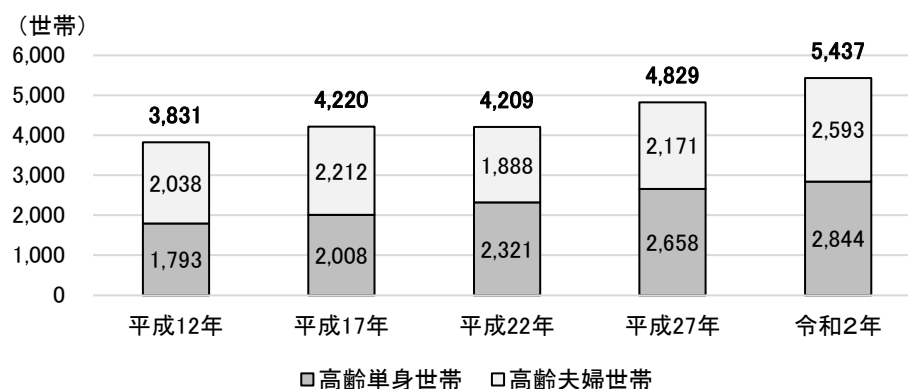
高齢者のみ世帯は増加傾向にあり、特に高齢者単身世帯は一貫して増加傾向で推移しています。

■要介護認定者数の推移



資料：介護保険事業報告月報

■高齢者のみ世帯の推移



資料：国勢調査

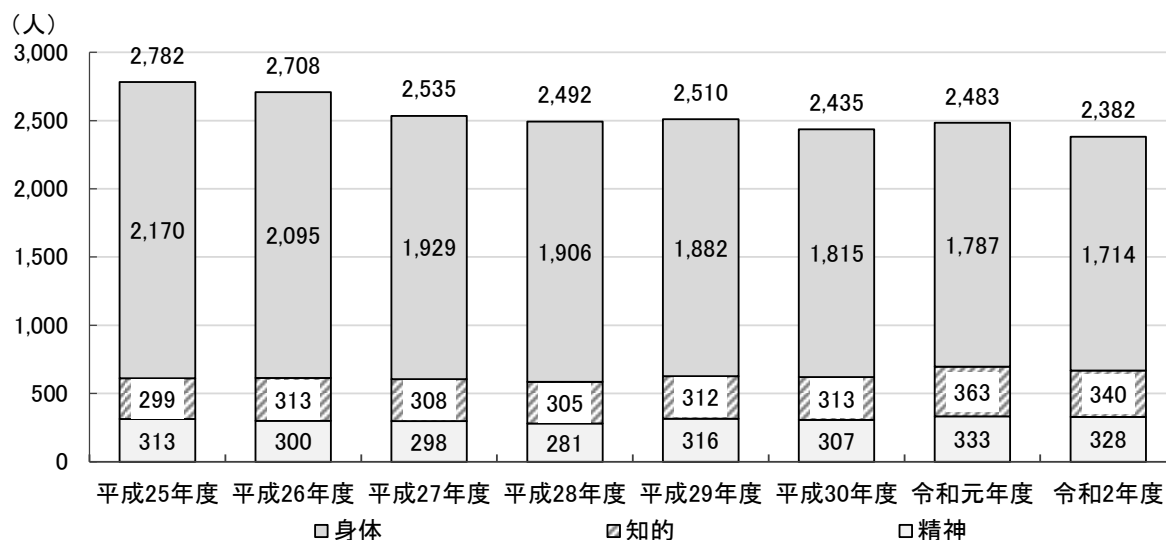
※65歳以上の一人世帯を「高齢単身世帯」、

夫65歳以上、妻60歳以上の夫婦のみの世帯を「高齢夫婦世帯」といいます。

③障害者数の推移

障害のある人（手帳所持者各年度4月1日現在）は、令和2年度現在で身体障害者が1,714人、知的障害者が340人、精神障害者が328人となっており、平成25年度以降は全体的に減少傾向にあります。

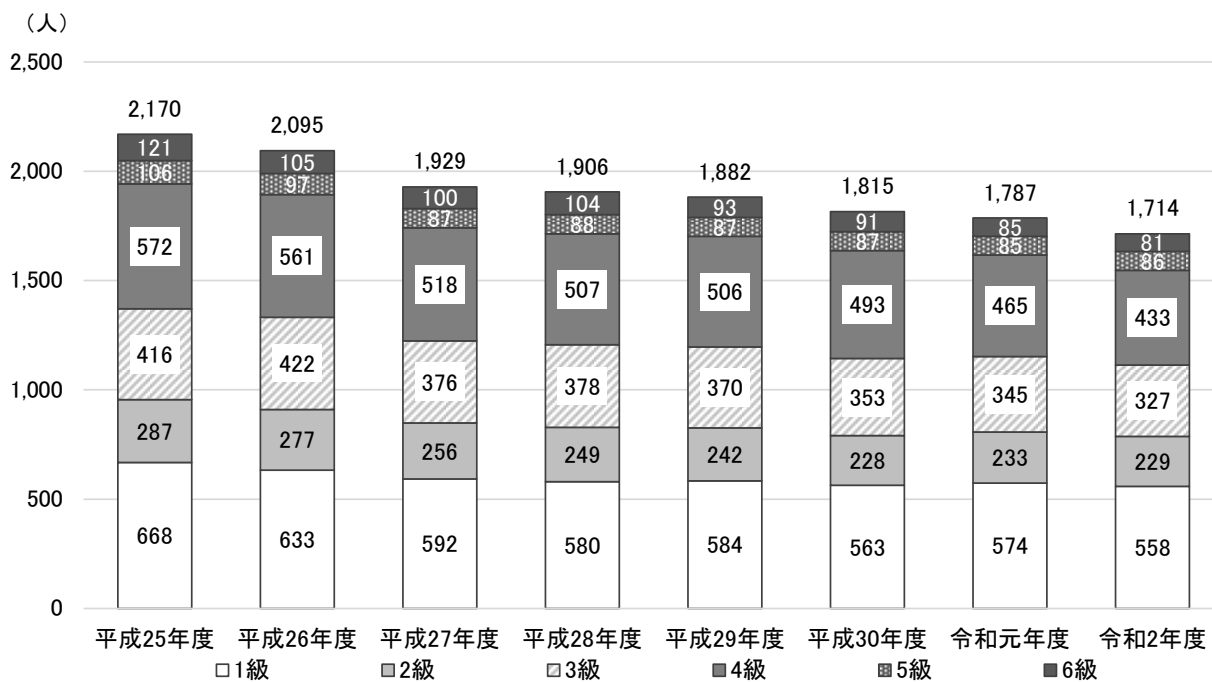
■手帳別障害者数の推移



資料：第6期障害福祉計画及び第2期障害児福祉計画

身体障害者数を等級別にみると、すべての等級において減少傾向にあります。

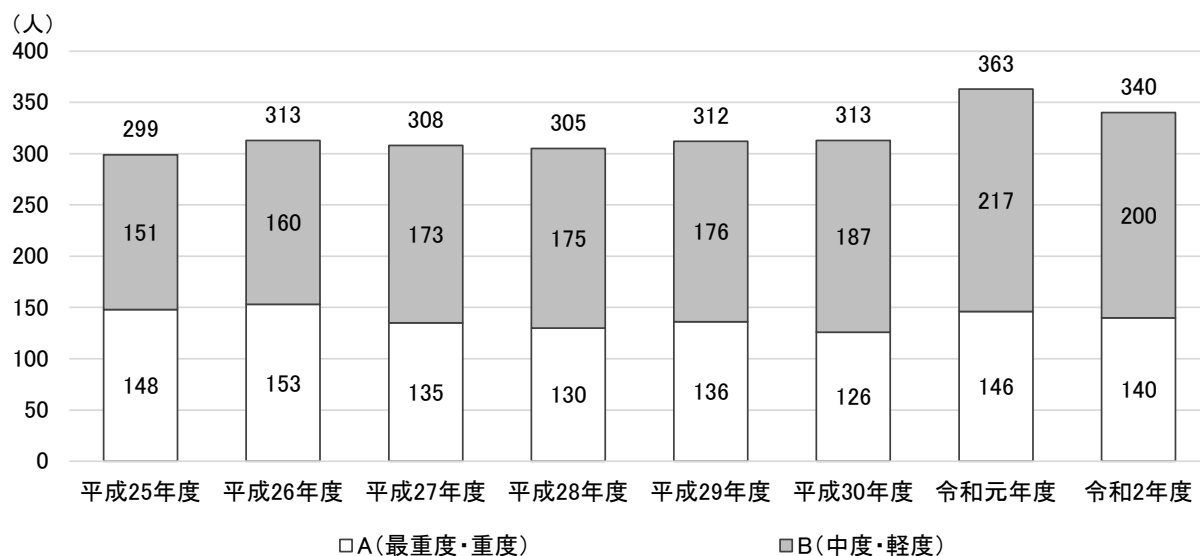
■等級別身体障害者数の推移



資料：第6期障害福祉計画及び第2期障害児福祉計画

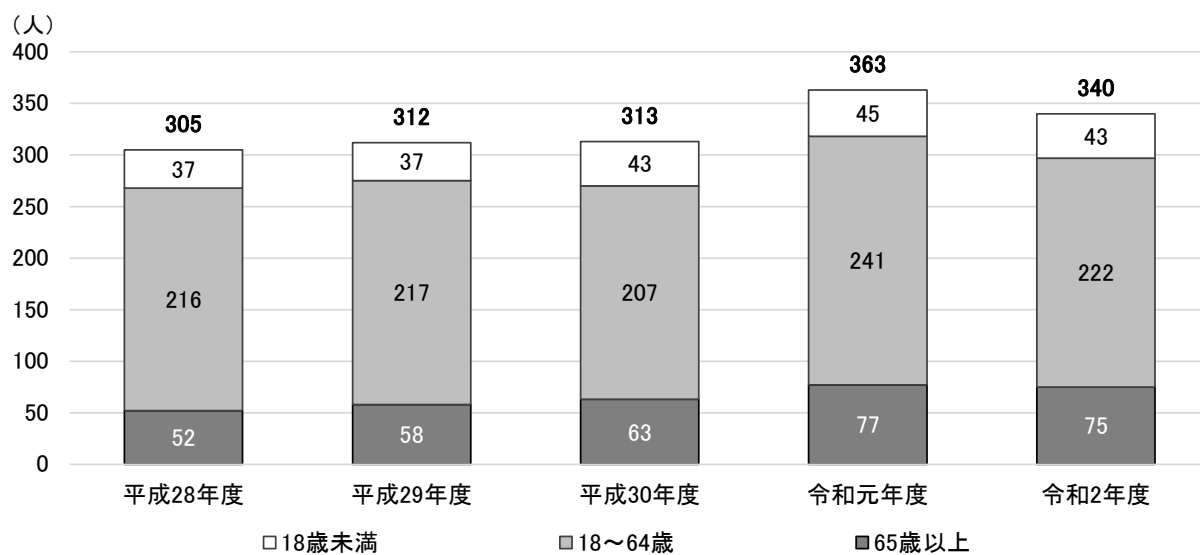
知的障害者数の推移をみると、等級別ではB（中度・軽度）が増加傾向にあります。年代別にみるとすべての年代で増加傾向にあり、特に65歳以上の手帳所持者の増加が目立っています。

■等級別知的障害者数の推移



資料：第6期障害福祉計画及び第2期障害児福祉計画

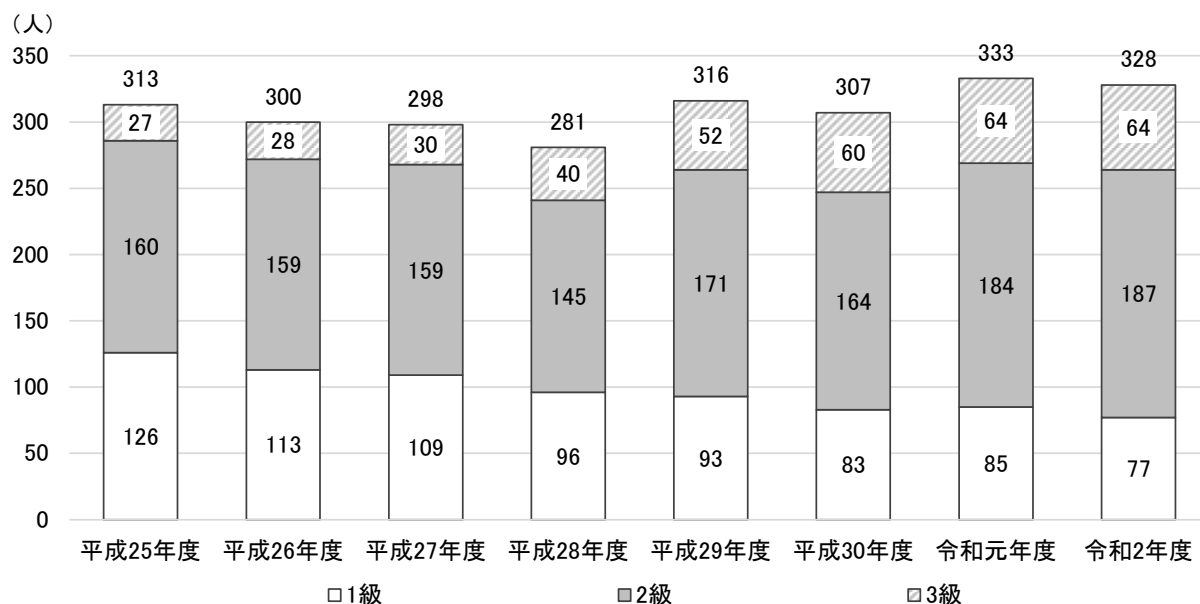
■年齢別療育手帳所持者数の推移



資料：第6期障害福祉計画及び第2期障害児福祉計画

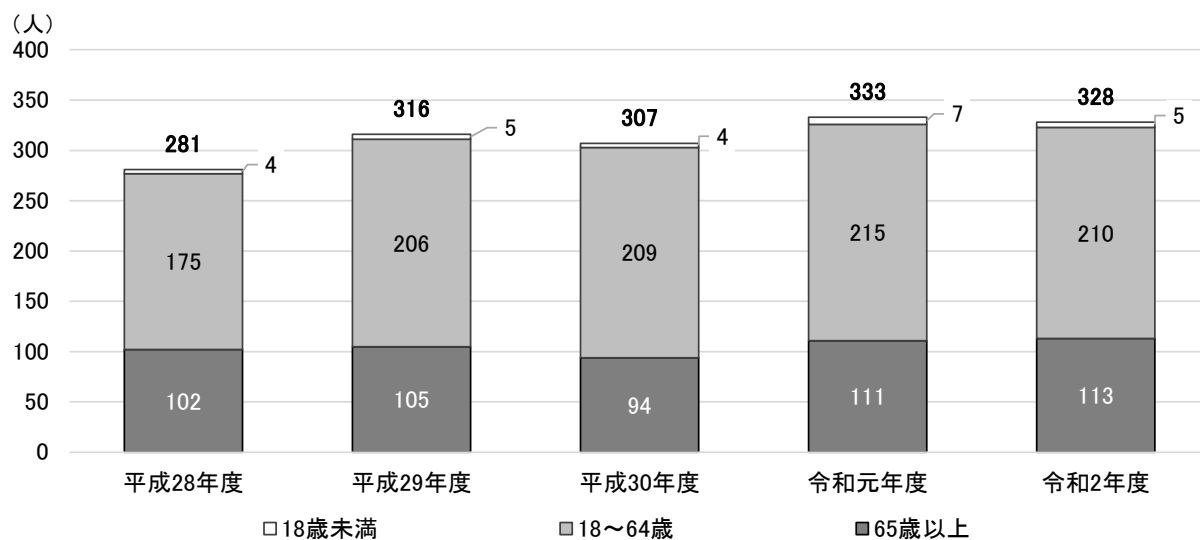
精神障害者数の推移をみると、等級別では2級と3級が増加しています。年代別にみると18歳以上の年代で増加傾向にあり、特に18～64歳の手帳所持者の増加が目立っています。

■等級別精神障害者数の推移



資料：第6期障害福祉計画及び第2期障害児福祉計画

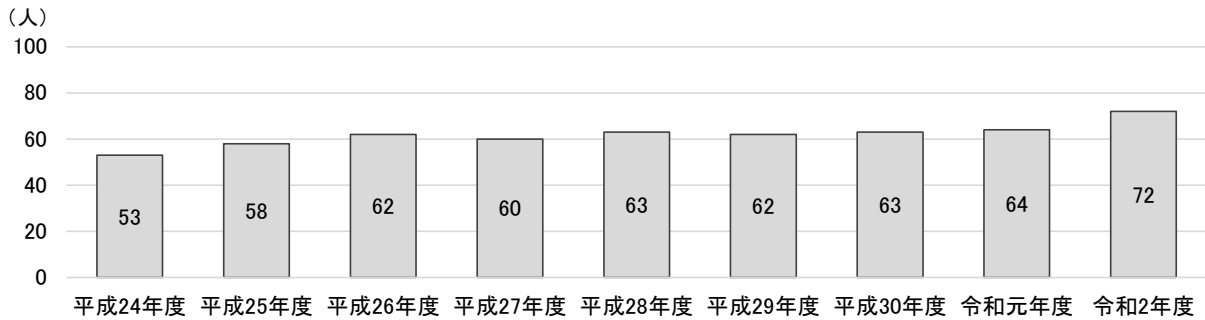
■年齢別精神保健福祉手帳所持者数の推移



資料：第6期障害福祉計画及び第2期障害児福祉計画

特別児童扶養手当の受給者数の推移をみると、増加傾向で推移しており、支援を必要とする障害児が増加していることがわかります。

■特別児童扶養手当受給者数の推移

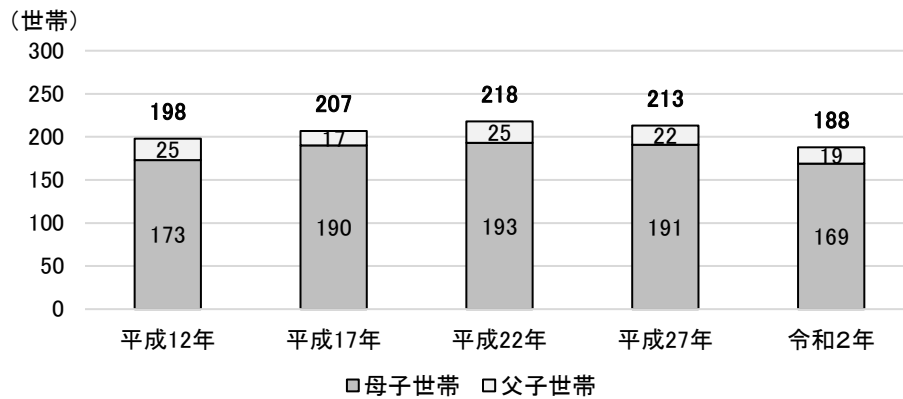


資料：子育て支援課

④ひとり親世帯の状況

ひとり親世帯は平成27年までは概ね増加傾向にありましたが、令和2年には減少に転じています。ひとり親世帯の中で母子世帯の占める割合は高い状態です。

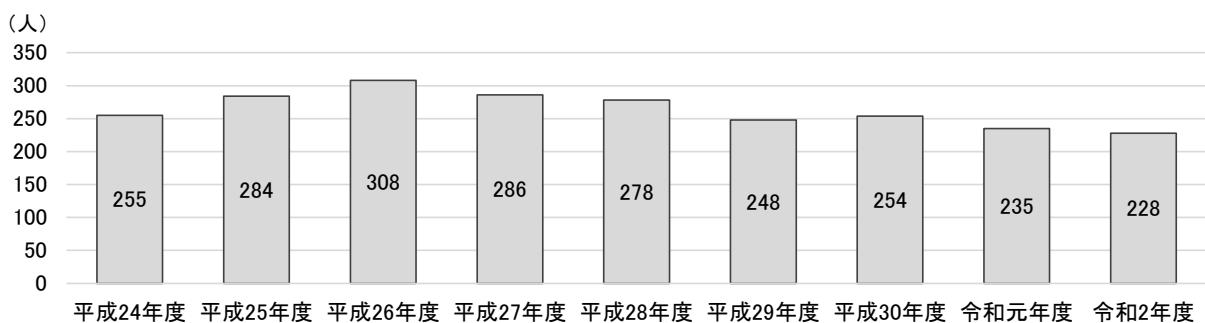
■ひとり親家庭の推移



資料：国勢調査

父または母の一方からしか養育を受けられない、ひとり親家庭等の児童のための「児童扶養手当」の受給者数の推移をみると、平成26年度以降減少傾向にあります。

■児童扶養手当の受給者数

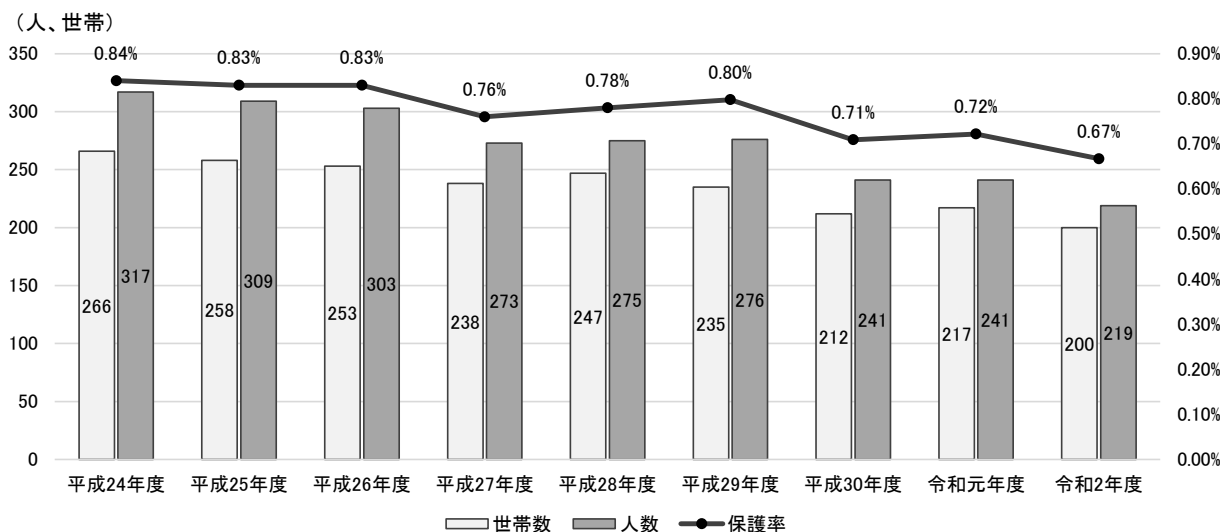


資料：子育て支援課

⑤生活保護世帯の動向

生活保護世帯、人員とも年々減少しており、保護率は、平成 24 年度の 0.84%に対し、令和 2 年度は 0.67%と 0.17 ポイントの減少となっています。

■生活保護受給者数の推移



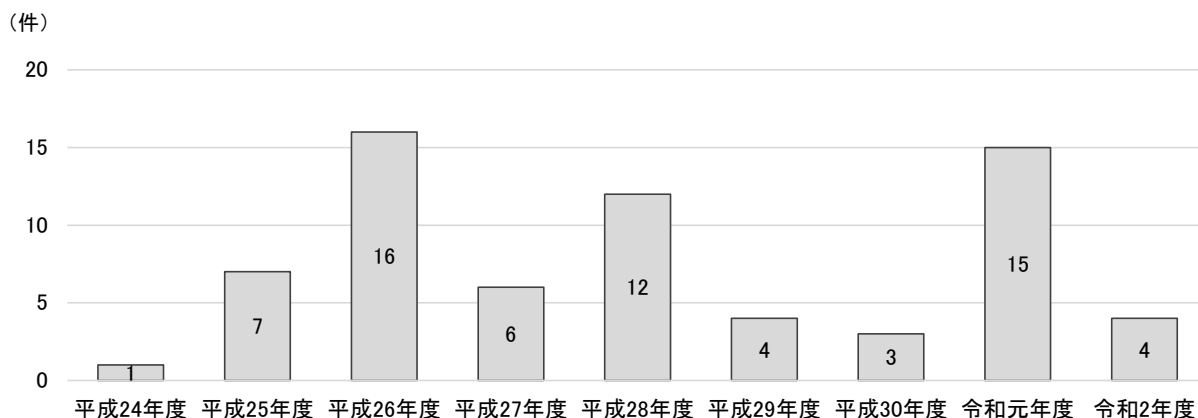
※保護率＝被保護人員/人口×100(単位：%)

資料：地域福祉課

⑥DV（ドメスティックバイオレンス）相談件数の推移

相談件数は増減を繰り返しており、多い年では平成 26 年度に 16 件、平成 28 年度に 12 件、令和元年度に 15 件となっています。

■DV相談件数の推移



資料：市民活動推進課



統計からみる課題

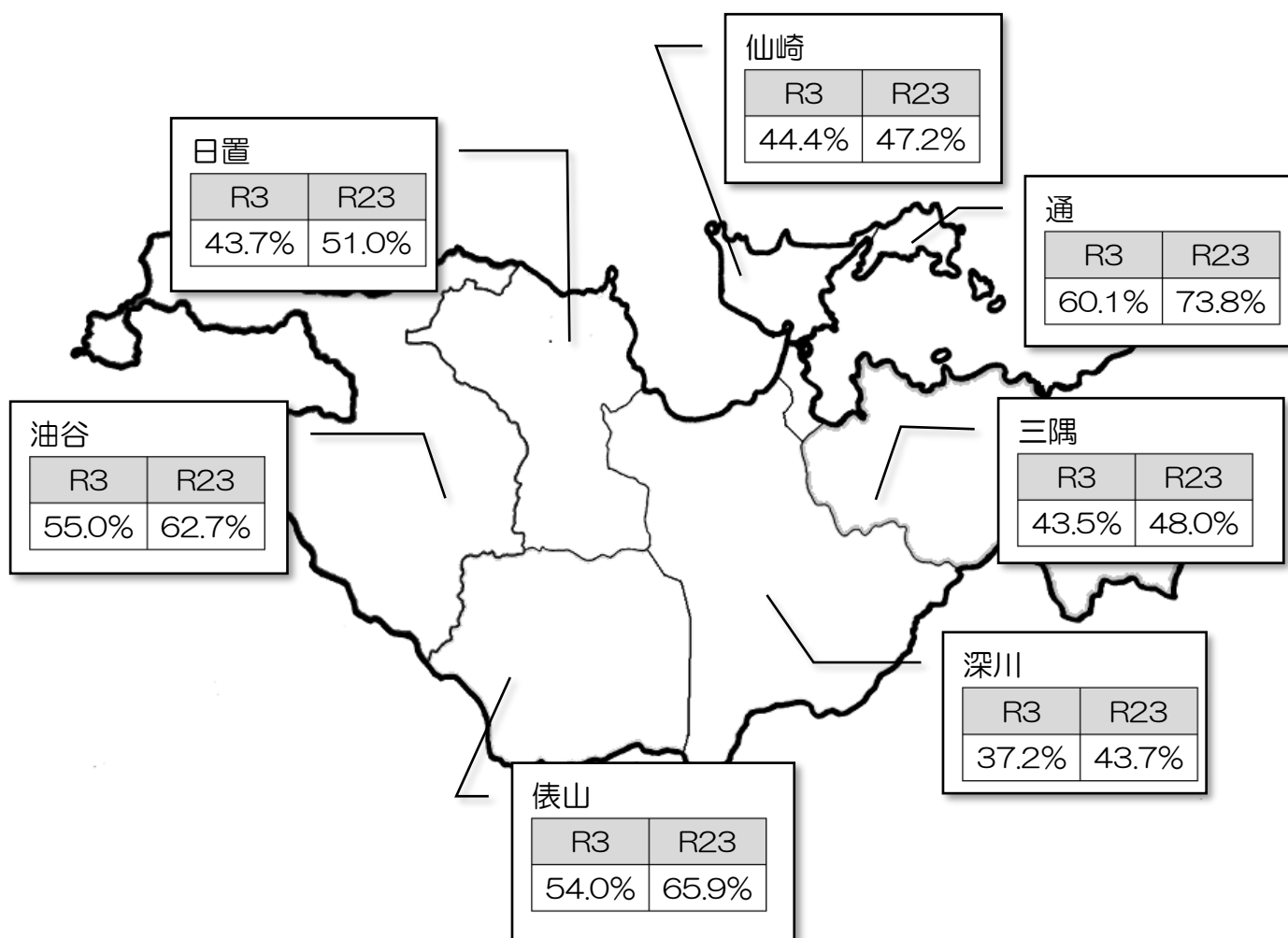
- 少子高齢化の進展と人口減少
- 高齢者のみ世帯やひとり親世帯等見守りを必要とする人々の増加
- 要介護認定者や知的・精神障害者など、配慮や支援を必要とする人の増加

(2) 地域別の状況

本市は、旧市町からなる7つの地区から構成されており、各地区の高齢化率には大きな格差がみられます。地域別の高齢化率をみると、令和3年時点では通地区の高齢化率が最も高く、令和23年には7割を超える見込みとなっています。

今後、各地区がコミュニティとして維持され、発展していくためには、生産年齢人口の確保とそれに伴う年少人口割合の増加を図ることが重要です。

■地区別の高齢化率



①通地区

1. アンケートからみる現状

○地域での生活について

- ▶地域の関係について、他の地区と比較すると「家族ぐるみでつきあいがある隣近所の人がある」「留守にするときには、用が頼める隣近所の人がある」を合わせた割合が高くなっている。
- ▶「住んでいる地域が好きだ」の肯定率は7割程度となっている。また「地域のために役に立ちたい」と回答した割合は6割を超えている。
- ▶老後の生活における不安について、他の地域と比較して「交通手段が少なく、病院や買い物などに行くときに不便なこと」の割合が高くなっている。

○住民活動、地域福祉活動について

- ▶地区の活動や行事への参加率は他の地域と比較して低く、3割程度となっている。
- ▶ボランティア活動についても参加率は他の地域と比較して低く、40歳～64歳では3割程度が、65歳以上では2割程度が「興味や関心がない」と回答している。

○災害について

- ▶防災訓練に参加した割合は他の地域と比較して高く、3割程度となっている。
- ▶災害時に困ることとして、「避難場所で医療ケアなどが受けられるか不安」「要支援者（高齢者・障害者・乳幼児など）に配慮された避難所に避難できるか不安」の割合が他の地区と比較して高くなっている。

○福祉サービスについて

- ▶今後進めていくべき福祉サービスについて、他の地区と比較して「病院まで遠い地域への医師や保健師の派遣」の割合が高くなっている。

2. 団体ヒアリングからみる現状

- ▶少子高齢化の進展により、見守りが必要な世帯が増加する一方で地域の担い手が不足している。
- ▶他の団体との交流機会が不足している。



通地区の課題

- 地域への愛着や「役に立ちたい」という意識を地域福祉活動の実践につなげられるきっかけが必要である。
- 避難所について不安を感じている人が多く、災害時でも必要な支援を受けられるよう福祉避難所等の整備が求められる。
- 地域活動団体が地区を越えて連携できるネットワークが必要である。

3. 地区懇談会

通地区では、地区懇談会のテーマと目指す姿を以下のように設定しています。

■テーマと目指す姿

テーマ	独居高齢者の食事が心配
具体的な取組	・年に2回ほど簡単な料理教室を開く

未来の姿

独居高齢者の身体不自由な人は安い金額で配食サービス

少しでも料理ができる人は簡単な料理教室をする

- ・男女問わず簡単にできる料理をする
- ・通の魚を活かした料理の習得
- ・市に補助金をつけてもらい、安い配食サービスを展開する

■地区懇談会の様子



②仙崎地区

1. アンケートからみる現状

○地域での生活について

- ▶40 歳未満では「隣近所の人ほとんど顔も知らない」の割合が3割程度となっている。
- ▶「住んでいる地域が好きだ」の肯定率は8割を超え、「地域のまともは良いほうだ」の肯定率は7割を超えている。特に40 歳未満は他の年代よりも「住んでいる地域が好きだ」の肯定率が高く、若い世代の地域への愛着度は高くなっている。一方で、地域のまともについては若い世代の肯定率は比較的低くなっている。

○住民活動、地域福祉活動について

- ▶40 歳未満では半数以上が地域活動に参加しておらず、またボランティア活動についても4割程度が「興味や関心がない」と回答している。

○災害について

- ▶他の地域と比較して「避難場所を知らない」の割合が高くなっており、特に40 歳未満においては3割以上が避難場所を知らないと回答している。

○福祉サービスについて

- ▶今後進めていくべき福祉サービスについて、他の地域と比較して「通院や買い物などの外出時の付き添い」の割合が高くなっている。

2. 団体ヒアリングからみる現状

- ▶子育て世帯や若年層の活動が少なく、人や地域とのつながりを持つことが難しくなっている。
- ▶高齢者世帯が増加し、見守りが必要な人は増加する一方で地域の担い手が不足している。



仙崎地区の課題

- 若い世代の地域への愛着度は高い一方で、地域活動やボランティアへの関心が持てていないことから、地域への愛着をきっかけに活動へ巻き込む仕掛けが必要である。
- 防災意識が低く、災害時に助け合える地域のつながりが求められる。
- 外出に不安を抱える人が多く、地域活動団体とも協力してサービスを充実させる必要がある。

3. 地区懇談会

仙崎地区では、地区懇談会のテーマと目指す姿を以下のように設定しています。

■テーマと目指す姿

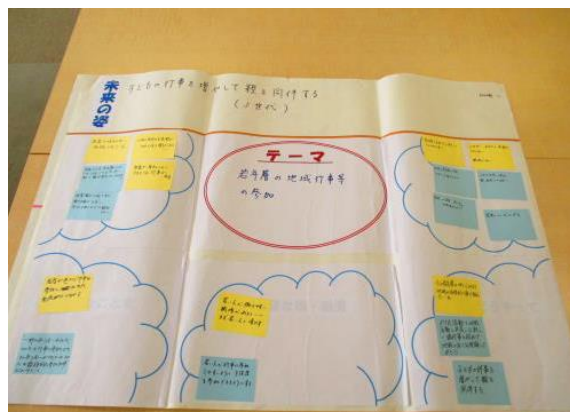
テーマ	若年層の地域行事等の参加
具体的な取組	<ul style="list-style-type: none"> • PTA 活動と地域活動を共有した新しい行事を始めて、地域の良さを理解してもらう • 若者との交流を密にして解決策を見出す • 外からの転入を歓迎し、働ける場を増やす • スポーツ等を通じた若者と高齢者の交流 • 若者のリーダーを育成する • 一部の知り合いの 30 代、40 代を行事に参加させ、その知り合いが他の 30 代、40 代の参加を積極的に呼びかけるなど、若者から若者への声掛け • 若者が行事に参加しやすいよう子どもたちが参加できる行事を開催する

未来の姿

子どもの行事を増やして、親を同伴する（三世代交流）

- 今の若年層が中心となり、地域の活性化に取り組んでいる
- 若者の住みやすい地域になっている
- 若者が参加したくなる行事がある
- 仙崎小学校の生徒数が 300 人くらいに増える
- 若者が高齢者の手助けを率先して行う
- 三世代・四世代の家族が増えている
- 若者が働きやすい職場がある

■地区懇談会の様子



③深川地区

1. アンケートからみる現状

○地域での生活について

- ▶他の地域と比較して近所の人と深い関係を築いている人の割合が低く、特に40歳未満ではその傾向が顕著に表れている。
- ▶「住んでいる地域が好きだ」の肯定率は8割を超え、「今の生活に満足している」の肯定率は7割を超えている。

○住民活動、地域福祉活動について

- ▶地域の行事や活動に参加している割合は他の地区と比較して低くなっており、特に40歳未満では参加している割合が2割程度となっている。

○災害について

- ▶他の地域と比較して「避難場所を知らない」の割合が高くなっている。
- ▶防災訓練に参加した割合は3割程度となっており、65歳以上では2割に達していない。

2. 団体ヒアリングからみる現状

- ▶深川地区社協で取り組んでいる活動について、一部の人がしか利活用できておらず、徒歩で参加できる範囲で気軽に集える場の整備が不十分である。
- ▶メンバーの世代に偏りがあり役員のなり手がいない。
- ▶子ども食堂としてだけでなく地域交流の場、親世代の息抜きの場、生活困窮者支援等を行っているが、プライバシーへの配慮もあり本当に困っている人の情報を入手しにくい。
- ▶活動メンバーの専門性の不足や、必要な情報が集められない。
- ▶支援を必要とする人が相談できる窓口の整備が不十分である。



深川地区の課題

- 地域関係の希薄化が進んでおり、地域の関係づくりとともに避難場所の周知や防災訓練への参加率向上に取り組むことが必要である。
- 若い世代が地域活動へ参加できるきっかけが必要である。
- 他の地区と比較して支援を必要とする人が多いことも考えられるため、身近な相談窓口の充実や孤立を防ぐ取組が求められる。

3. 地区懇談会

深川地区では、地区懇談会のテーマと目指す姿を以下のように設定しています。

○東深川地区

■テーマと目指す姿

テーマ	地域づくりのリーダー・後継者の不足（若者の参加・協力）
具体的な取組	<ul style="list-style-type: none"> ・就職先の確保など、若者が住みやすい地域づくり ・安心して子育てができる環境づくりなど、若者の支援体制の充実 ・地域リーダーのネットワークづくりの支援 ・各部会のリーダーが信頼できる後輩を育てる

未来の姿

就職・結婚・子育てなど若者が住みやすいまち
後継者づくりと集団組織づくり
多くのネットワークを活用した広報

- ・若者の働く場の増加と地域の発展
- ・後継者の増加
- ・若者を呼び込みやすい体制づくり

○西深川地区

■テーマと目指す姿

テーマ	若者の後継者不足
具体的な取組	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の人たちが互いに声をかけ合える雰囲気づくり ・魅力ある行事を行う ・若者同士のネットワークの強化 ・地域で子育てできる環境づくり ・雇用の充実

未来の姿

若者と高齢者が一緒になって笑顔で行事を開催できる地区
～地域のネットワークの強化～

- ・安心して生活できる住みやすいまちづくり
- ・若い世代が増え、若者と高齢者が楽しく集う活気あるまち
- ・若者が地区行事の企画立案を行う
- ・若者が積極的に参加できるような活動を行い、若者の参加が増える
- ・若い世代が定住する

○向陽・大畑地区

■テーマと目指す姿

テーマ	地域づくりのリーダー・後継者の不足（若者の参加・協力）
具体的な取組	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校と連携して若い親に行事の参加を呼びかける ・小学校のうちから授業に地域の伝統行事を取り入れる ・他県からの移住者に意見を聞く ・地域のコミュニケーションの強化 ・近くで働く場をつくる ・湯本温泉を活かした事業者の誘致 ・企業の若者が参加しやすい環境づくり ・子ども会と老人会のふれあう機会づくり ・空き家をアパートとして活用する

未来の姿

納涼祭等の地域活動を通じた高齢者と若者のつながりづくり

- ・湯本の温泉街に活気があふれ、雇用が増えて若者も増える
- ・小さい子が大人になって、自然に行事に参加できる環境
- ・現在の人口維持と若者の定住者の増加
- ・子、孫、三世代で過ごせる社会
- ・南条、ういろうなど地域文化の後継者を育てる

■地区懇談会の様子（東深川地区、西深川地区、向陽・大畑地区）



東深川地区



西深川地区



向陽・大畑地区

④俵山地区

1. アンケートからみる現状

○地域での生活について

- ▶「家族ぐるみでつきあいがある隣近所の人がいる」と回答した割合が他の地区と比較して高くなっている。
- ▶「住んでいる地域が好きだ」「地域のまとまりは良いほうだ」の肯定率はどちらも7割を超えており、また「地域のために何か役に立ちたい」の肯定率は5割を超えている。

○住民活動、地域福祉活動について

- ▶他の地区と比較して地域の行事や活動に参加している割合が高く、4割程度となっている。
- ▶ボランティア活動について、5割近くが「きっかけがあれば参加してみたい」と回答しており、参加意欲は高いことがわかる。

○災害について

- ▶防災訓練について、65歳以上の参加率は2割に達しておらず、その理由として「参加の機会がなかった（訓練がなかった）ため」の割合が最も高くなっている。

○福祉サービスについて

- ▶今後進めていくべき福祉サービスについて、他の地区と比較して「病院まで遠い地域への医師や保健師の派遣」の割合が高くなっている。

2. 団体ヒアリングからみる現状

- ▶地区では高齢化の進展が顕著であり、病院も遠いことから生活に不安を感じている人も多くなっている。
- ▶活動していくうえで情報収集や発信が難しく、他の団体との交流機会が不足している。



俵山地区の課題

- 「地域のために何か役に立ちたい」「きっかけがあれば参加してみたい」と考えている人に活動を実践してもらう機会をつくることが求められる。
- 災害時に備え、地域での防災訓練の機会を充実させることが必要である。
- 地域で安心して暮らせるよう、福祉サービス等の充実が特に求められている。

3. 地区懇談会

俵山地区では、地区懇談会のテーマと目指す姿を以下のように設定しています。

■テーマと目指す姿

テーマ	地域での高齢者との関わり方
現状	<ul style="list-style-type: none"> ・サロンや敬老会、行事の参加が少ない ・交通が不便（免許がない人が多い） ・百円市を兼ねて高齢者が集まっている（週1～2回） ・耳が遠い、足が悪い等のため人付き合いが薄くなっている ・高齢者本人があまり出たがらず、会話などは電話で済ませている ・地域のイベント、祭り等が以前より少ない ・買い物をする機会が少ない
具体的な取組	<ul style="list-style-type: none"> ・空き家を活用した色々なテーマのサロン活動 ・やりたい人、できる人が活動し、時間に縛られず集まれる場づくり ・様々な方法による受け皿作り

未来の姿

俵山でよかったと思える不安のない老後の生活
 自由な移動手段が確保された生活
 全自動の車が各家1台ある

■地区懇談会の様子



⑤三隅地区

1. アンケートからみる現状

○地域での生活について

- ▶「住んでいる地域が好きだ」の肯定率は9割近くとなっており、「地域のまとまりは良いほうだ」の肯定率は8割を超えている。
- ▶「これからだんだん良くなる地域だ」の肯定率を年代別にみると、40歳未満の肯定率が他の年代よりも高くなっている。

○住民活動、地域福祉活動について

- ▶他の地区と比較して地域の行事や活動、ボランティア活動に参加している割合が高くなっている。
- ▶ボランティア活動について、40歳未満では6割が「きっかけがあれば参加してみたい」と回答しており、参加意欲は高いことがわかる。

○災害について

- ▶他の地域と比較して防災訓練への参加率が高い。一方で、65歳以上の参加率は3割に達していない。

2. 団体ヒアリングからみる現状

- ▶地域福祉として取り組む範囲が広く、住民にもメンバーとして関わってほしい。
- ▶情報発信や他の団体と交流する場が不足している現状がある。
- ▶地域住民には、活動について理解を深めてほしい。



三隅地区の課題

- 地域活動・ボランティア活動に参加意欲のある若い世代を、実際に活動へ巻き込むきっかけが必要である。
- 65歳以上の人も積極的に防災訓練に参加できるよう、地域ぐるみでの防災の取組が必要である。
- 地域活動に関する団体同士のネットワークを構築し、情報共有や連携を深めることが必要である。

3. 地区懇談会

三隅地区では、地区懇談会のテーマと目指す姿を以下のように設定しています。

■テーマと目指す姿

テーマ	独居高齢者及び二人暮らし高齢者の見守り体制・安否確認
具体的な取組	<ul style="list-style-type: none">・ 玄関に目印の旗を立てる・ 自治会長に相談する・ 消防団に協力してもらう・ 若者の団体協力・ 学校の協力

未来の姿

みんなで元気！！イキイキとしたまちづくり

- ・ 男性のグループ活動の場づくり
- ・ 近所の人たちの声掛け推進
- ・ 自動運転の早期の普及

■地区懇談会の様子



⑥日置地区

1. アンケートからみる現状

○地域での生活について

- ▶地域の関係について、5割近くが「顔をあわせればあいさつする程度の付き合いがある」となっており、40歳未満では他の世代と比較して「隣近所の人顔は知っているが、声をかけたことはほとんどない」の割合が高くなっている。
- ▶「住んでいる地域が好きだ」の肯定率は9割程度となっている。一方で「これからだんだん良くなる地域だ」の肯定率は2割程度となっており、特に40歳未満は他の年代と比較して低くなっている。
- ▶老後の生活における不安について、他の地域と比較して「交通手段が少なく、病院や買い物などに行くときに不便なこと」の割合が高くなっている。

○住民活動、地域福祉活動について

- ▶地区の活動や行事への参加率は、40歳未満は他の年代と比較して参加率が低く、またボランティア活動についても5割以上が「興味や関心がない」と回答している。

○災害について

- ▶防災訓練の参加率は、65歳以上が著しく低く1割程度となっている。その理由として、「参加の機会がなかった（訓練がなかった）ため」の割合が高くなっている。

2. 団体ヒアリングからみる現状

- ▶自治会等と連携しながら地域の見守り活動や、地域包括支援センターや民生委員・児童委員協議会と連携し、地域の情報共有や相談支援などを行っている。
- ▶地域住民には団体の活動に理解を深めてもらいたいと感じている。



日置地区の課題

- 地域の将来展望が見えておらず、「自分たちで地域を良くしていく」という意識づくりから取り組む必要がある。
- 高齢者の防災意識向上に取り組む必要があり、地域での防災訓練の機会の充実と周知が求められる。
- 既存の地域活動団体だけでなく、地域住民も巻き込んで支え合いの仕組みをつくる必要がある。

3. 地区懇談会

日置地区では、地区懇談会のテーマと目指す姿を以下のように設定しています。

■テーマと目指す姿

テーマ	地域行事への参加者の減少
具体的な取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1人暮らし、2人暮らしの方のサロンへの参加促進 ・ 盆踊りなど時節のイベントの活性化 ・ 伝統的な祭りに新しいやり方をプラスする ・ 若い世代の移住促進 ・ 行事に家族ぐるみで子ども達が積極的に参加する ・ 若者の定住を促進することで災害等の有事の際の力になる

未来の姿

集まることで地域力アップ！ → ●●の時の力になる

- ・ 各自治会で行われている祭りが受け継がれている
- ・ 少子化が改善されている
- ・ 行事を行う事で地域交流が進んでいる
- ・ 地域行事・サロンが続いている
- ・ 若者の定住

■地区懇談会の様子



⑦油谷地区

1. アンケートからみる現状

○地域での生活について

- ▶地域の関係について、65歳未満では「顔をあわせればあいさつする程度の付き合いがある」の割合が6割程度となっている。
- ▶「地域のために何か役に立ちたい」の肯定率は高く、65歳未満の肯定率は7割程度となっている。
- ▶老後の生活における不安について、他の地域と比較して「交通手段が少なく、病院や買い物などに行くときに不便なこと」の割合が高くなっている。

○住民活動、地域福祉活動について

- ▶地区の活動や行事への参加率は比較的高く、5割近くとなっている。
- ▶ボランティア活動について、40歳未満では3割が「興味や関心がない」と回答している。

○災害について

- ▶防災訓練に参加した割合は他の地域と比較して低く、2割程度となっている。特に65歳以上の参加率は他の年代と比較して著しく低く、1割程度となっている。

2. 団体ヒアリングからみる現状

- ▶高齢化や過疎化の進行により自治会単位の活動が難しくなっている。
- ▶地域の担い手についても高齢化が進み、人材の確保・育成に取り組まなければならない。
- ▶遠方の地域でも必要なものが入手できるよう、注文販売及び運送の仕組みをつくる必要がある。



油谷地区の課題

- 地域活動や行事への参加率は高い一方で地域関係はあまり深められておらず、地域の関係づくりにつなげられる活動や行事を企画する必要がある。
- 特に高齢者を中心に防災意識の向上に取り組む必要がある。
- 交通手段や買い物等に不安を感じる人が多く、移動や注文販売などの福祉サービスについて検討する必要がある。
- 自治会の在り方について検討し、自治会機能の維持に向けた取組が求められる。

3. 地区懇談会

油谷地区では、地区懇談会のテーマと目指す姿を以下のように設定しています。

■テーマと目指す姿

テーマ	独居高齢者及び二人暮らし高齢者の見守り体制・安否確認
具体的な取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者と若者の交流を多くする ・ 新しい情報を住民全体で共有できるシステムをつくる (自治会や民生委員等でデータを共有できるようにする) ・ 地区福祉員、民生委員の定期的な訪問の実施 ・ 観光資源を活かした新規住民による人口増加 ・ 日常の会話づくりや施設づくりを行い、交流の場を増やし、皆が笑顔で暮らせるまちづくり

未来の姿

笑顔で輝くために・・・。
～地域や世代の交流の場づくり～

- ・ お互いに話し合える地域である
- ・ 繋がるための地域行事が活発化している
- ・ 人口は少なくても輝いている
- ・ 集落自体の消滅（人口減少）
- ・ 子ども達が学校へ通う姿が見れなくなる（少子化）
- ・ 生活が不便になっている

■地区懇談会の様子



(3) 地域福祉を支える様々な地域資源と市民協働

少子高齢化や世帯構造の変化が進んでいく中で、支援を必要とする市民に対し、地域として一体的に取り組む課題は数多く、多様化しています。

本市には、「医療・福祉サービス」「地域拠点」「地域を支える人材」等地域福祉を推進するうえで重要な役割を担う様々な地域資源があり、多様化する地域課題の解決に向けた活用等が期待されます。

一方で、地域コミュニティそのものが人口減少や少子高齢化に伴って大きく変容し、一部にはコミュニティ機能の維持が危惧される状況が見受けられます。

このような状況を受け、それぞれのコミュニティ単位で、行政との協働関係によるまちづくりに取り組んでいくことが求められます。

■長門市のNPO・ボランティア団体一覧

地区	団体名	活動内容
俵山	特定非営利活動法人 ゆうゆうグリーン俵山	俵山の自然の活用に係る情報の収集及び発信、意識の啓発等。自然環境を守りながら住民及び団体のネットワークの構築と新産業の創出を図る。
市全域	特定非営利活動法人 キュア ポート	精神障害者への自立生活支援及び社会復帰に関する事業。
市全域	特定非営利活動法人 サポートセンターゆうゆう	障害者に対して、生活介護事業、就労継続支援B型の多機能事務所として、地域で安心して自立した日常生活及び社会生活が送れるよう支援を行う。
市全域	特定非営利活動法人裕心会	すべての高齢者が、住み慣れた地域で暮らせるよう、必要なサービス活動を行う。
市全域	特定非営利活動法人つなぐ	地元への就職・創業が実現できる環境を整え、「まち」「ひと」「しごと」のハブ機能を構築し、地域の未来を自ら創造できる人材を育成。
市全域	ちびたまのしっぽ愛護会	動物の保護及び里親斡旋に関わる事業、動物の適正飼養の相談など動物の福祉の向上に関わる事業、動物愛護と生命尊重の精神を育む事業などを行う。
市全域	特定非営利活動法人 山口県断酒会	アルコール依存症者のための自助集団及び市民団体として、断酒活動を実践する。
市全域	特定非営利活動法人ひまわり	住み慣れた地域で、高齢者及び障害者が、健康で安心して暮らしていくことができる「生活リハビリ」中心の自立支援を行う。
市全域	特定非営利活動法人 長門市手をつなぐ親の会	長門地域の障害者に対して、障害者福祉サービス事業を行う。
市全域	特定非営利活動法人 生き生きネットみすみ	障害者及び高齢者等に対して、食生活の維持、相談及び援助に関する事業を行い、生きがいのある充実した生活をサポートする。他の施設や機関とともに地域に根ざしたネットワークを構築する。
市全域	特定非営利活動法人さざんか	長門地域の障害者及び地域住民に対して、精神保健福祉の普及啓発及びその福祉施策の促進に関する事業を行う。
市全域	特定非営利活動法人 しぜんとあそびたい	子ども達に自然体験活動を行う機会を提供し、自然を回復させる活動を通して、環境保全を図り子ども達の健全育成を推進する。
市全域	特定非営利活動法人スタッフ	過疎、高齢化する地域社会のため、農業を通じた環境の保全や経済発展を目指し、高齢者や障害者への支援活動を推進する。
市全域	特定非営利活動法人 パッシブ地中熱 大地の風	自然エネルギーを活用した省エネルギー並びにカーボン・オフセット社会等の普及、啓発を図る。
油谷	特定非営利活動法人むかつく	長門市油谷地域に居住する住民に対して、地域福祉及びまちづくりの推進等に関する事業を行う。

地区	団体名	活動内容
市全域	特定非営利活動法人 金子みすゞ顕彰会	金子みすゞの詩心の啓蒙及び金子みすゞに関する資料の収集、展示等を行い、広く市民の文化の向上に資するとともに、地域の恵まれた自然環境及び歴史的背景を活かした「心のふるさと」づくりに貢献する。
市全域	特定非営利活動法人きらり	障害者をはじめとする社会的弱者に対して、地域の産業、文化及び人々と密着し、連携した支援事業を行う。
油谷	特定非営利活動法人 ゆや棚田景観保存会	長門市棚田保護条例により指定された指定区域内の棚田の景観の保全及び継承に関する事業を行う。
市全域	特定非営利活動法人 エヌピーオーながと	古典芸能や各種演劇上演等芸術文化の鑑賞の機会を提供する事業等を行うことによって芸術文化を振興する。
市全域	特定非営利活動法人人と木	森林環境を守る活動、木の文化を伝えていく活動、暮らしに木を取り入れていく活動、経済を活性化させていく活動、子どもの心を豊かにする活動を「木育」として、「木育」に関する事業を行う。
市全域	特定非営利活動法人 ヴァイセアドラー山口	地域住民や子どもに対して、プロ選手などによるイベント開催、スポーツ大会やスポーツスクールの主催・運営などの事業を行う。
市全域	特定非営利活動法人 やまぐち子育て長門	育児不安を解消するために、多数の親子が一緒に楽しく遊べる場の提供、ファミリーサポートとしての託児サービス及び育児相談会の実施並びに学童保育の支援を行う。 小さい子どもと地域のお年寄りとの交流活動、たくさんのお年寄りが楽しく集える場の提供、生涯教育につながる日本伝統文化工芸の伝承、地域のお年寄りへのいたわりの介護等を行う。
長門	音訳グループ こだま会	音訳活動による視覚障害者への情報支援。広報紙や長門時事の音訳活動、当事者団体との交流等。
長門	長門手話友の会	定例会・手話講習会の開催、手話通訳による聴覚障害者への情報支援、福祉教育・サロン会への協力等。
長門	ボランティアグループ 陶芸部	陶芸実習を通じての交流。作品の売上金を福祉事業に寄付。
長門	コーラスグループ コスモス	歌・コーラスによる福祉施設訪問活動。
長門	仙崎婦人会	ひとり暮らし高齢者の弁当づくり、学校活動支援、環境美化活動、その他ボランティア活動。
長門	点訳ひまわりの会	点訳活動による視覚障害者への情報支援。当事者団体との交流、福祉教育への協力等。
長門	長門母子寡婦福祉会	福祉施設訪問、清掃活動、地域づくり活動等。
長門	にこにこ会	研修会や会議時の託児、障害者の支援。
長門	長門要約筆記「青い海」	要約筆記、ノートテイクによる聴覚障害者への情報支援活動。
長門	発達障害を考える会 ブルースター	発達障害児・者とその家族への支援及び発達障害に関する講演会など啓発活動。
三隅	リフォームボランティア どんぐりの会	牛乳パックや古布等のリフォーム。作品の売上金を福祉事業に寄付。
三隅	ひなげし	福祉施設のおしめづくり。
三隅	孫の手	障害者福祉施設の洗濯物・ペーパーたたみ活動。
三隅	MOA ゆめサークル	花の活けこみによる福祉施設訪問活動。リサイクル花器の作製。
三隅	サクラ	福祉施設のおしめづくり。
日置	ヒューマンリング	ひとり暮らし高齢者誕生祝い配布事業（毎月1回）の支援。
日置	やってみよう会	チリトリづくりを通じての交流及びイベントへの参加。売上金の一部をボランティア活動事業に寄付。

地区	団体名	活動内容
日置	黄波戸銭太鼓	銭太鼓による福祉施設訪問活動。
日置	たいやきの店	たいやきの店（毎週金曜日）の営業及びイベントへの参加。売上金の一部をボランティア活動事業に寄付。
日置	栄美会	日舞による福祉施設訪問活動。
日置	日置りぼんの会	絵手紙を通じて高齢者の介護予防活動を支援。
日置	ベルーナハキ	ハンドベルによる福祉施設訪問活動。
日置	あすなる会	手芸を通じて高齢者の介護予防活動を支援。
日置	さくら会	銭太鼓による福祉施設訪問活動。
日置	音楽たのしみ隊 ハキ・わっはっは	音楽を通じて高齢者の介護予防活動を支援。サロンへの出前講座協力。
油谷	油谷婦人会	小学校での活動支援・特別支援学級訪問、イベントへの参加・協力、リサイクル活動等。
油谷	よみっこクラブ	幼児・児童を対象とした絵本や紙芝居等の読み聞かせ活動。
油谷	寿藤会	学校活動支援、福祉施設訪問・ボランティア活動等。
油谷	たんぼぼクラブ	ギターやオカリナ等の演奏による福祉施設訪問活動。
油谷	油谷手話の会	定例会・手話講習会の開催、手話通訳による聴覚障害者への情報支援、福祉教育への協力等。



第2章 第3次計画の評価・課題の把握

(1) 基本目標1 安全で安心な住みよい地域をつくる

①基本施策1-1 地域における相談・見守り体制の充実

第3次計画では、各種相談員による相談活動の充実や連携の強化、見守り活動を行ってきました。令和2年度はコロナ禍の影響もあり、相談員による訪問活動や研修は控える動きとなっていました。相談件数は増加している傾向がみられます。

また、見守り体制の整備として緊急通報装置の設置を進めていますが、利用者から高い評価を得ている一方で、地域ごとの利用人数に差がみられます。

■前計画における数値目標と推移

成果指標	前計画における 目標値 (令和3年)	推移			
		平成29年	平成30年	令和元年	令和2年
地域見守り体制 整備事業利用者数	250人	237人	243人	236人	228人
地域見守り活動(まめ かいねネットワーク) 事業協力事業者数	15事業者	13事業者	14事業者	14事業者	14事業所

②基本施策1-2 支援の声をあげられない方への支援

第3次計画では、虐待の防止や社会的孤立を防ぐ取組を行ってきました。虐待の予防及び早期発見・早期解決につなげるためのネットワークの構築や、周知・啓発に努めていますが、虐待の背景には様々な課題があることが考えられるため、継続して取組を進める必要があります。

また、社会的孤立を防ぐ取組として介護者同士の交流の機会づくりや高齢者の閉じこもり予防、生活困窮者への自立支援、更生保護の取組等を進めています。特に生活困窮者への支援については、コロナ禍の影響による困窮者の増加も予想されるため、潜在的対象者の掘り起しや就労支援などの更なる充実が求められています。

■前計画における数値目標と推移

成果指標	前計画における 目標値 (令和3年)	推移			
		平成29年	平成30年	令和元年	令和2年
生活困窮者自立支援 事業支援件数	30件	15件	23件	17件	17件

③基本施策1-3 安全・安心なまちづくりの推進

第3次計画では、地域の中で安全・安心に暮らしていけるよう、自主防災組織の育成及び防災・防犯意識の高揚や健康な地域づくり、バリアフリーのまちづくりに取り組んできました。住民意識は高揚してきているものの、地区によって防災講座の開催回数に偏りがあることや、コロナ禍における健康づくりや生きがいつくりの取組が停滞していること等の課題がみられます。

防災・防犯分野では避難行動要支援者が災害の際に迅速に避難できるよう関係機関との連携や地区住民への啓発、健康づくり・生きがいつくりの分野ではアフターコロナを見据えた取組の再検討や受診率向上のための周知・啓発等が求められます。

■前計画における数値目標と推移

成果指標	前計画における 目標値 (令和3年)	推移			
		平成29年	平成30年	令和元年	令和2年
防災訓練の実施率	30.0%	23.8%	37.5%	41.1%	35.0%
介護予防講座の開催回数	150回	124回	94回	72回	55回
特定健康診査受診率	36.0%	27.6%	29.3%	33.5%	32.6%
各種スポーツ大会等の実施	80回	84回	92回	94回	20回

(2) 基本目標2 多様な福祉サービスを提供する

①基本施策2-1 総合的な相談体制・支援機能の充実

第3次計画では、関係機関との連携や情報の共有化、職員の資質向上に向けた取組を通じて相談支援体制及び機能の充実に取り組んできました。令和元年度以降は地域包括支援センターを市内3カ所に設置したことで、相談窓口が地域住民にとってより身近となり相談件数の増加につながっています。専門性の高い法律相談については弁護士等の専門職からの助言のもと対応方針を検討し、早期解決に向けた取組を行っています。

近年、地域住民の抱える課題は複合化・複雑化してきているため、令和元年度より高齢福祉課地域包括ケア推進室内に福祉総合相談窓口を設置し、多機関と連携した支援が行えるよう努めており、今後更に、包括的相談支援体制の整備を図ることが求められています。

■前計画における数値目標と推移

成果指標	前計画における 目標値 (令和3年)	推移			
		平成29年	平成30年	令和元年	令和2年
地域包括支援センターへの総合相談件数	450件	535件	657件	1,091件	1,613件

②基本施策2-2 多様な情報提供体制の整備充実

第3次計画では、読み上げソフトに対応したホームページの作成やケーブルテレビの文字放送、点訳事業・音声訳事業など、様々な人が理解できるように、わかりやすい情報提供に取り組んできました。一方で、読み上げソフトに対応できていないページがあること、情報量が多いことなどの課題もあるため、適切な情報の選別やアクセシビリティの考え方に基づくホームページの作成に取り組む必要があります。

また、ICT活用の観点から、光ファイバー網の整備や利用者のニーズに応じたフリーWi-Fiのアクセスポイントの拡充などが求められています。

■前計画における数値目標と推移

成果指標	前計画における 目標値 (令和3年)	推移			
		平成29年	平成30年	令和元年	令和2年
市ホームページの アクセス件数	70.0万件	67.4万件	64.9万件	73.7万件	88.0万件

③基本施策2-3 充実した福祉サービス供給体制づくり

第3次計画では、各福祉計画に基づいた福祉サービスの提供や質の向上、事業所との連携強化に取り組んできました。地域ケア会議については目標値に達していませんが、要支援者等の自立に向けた手立ての検討や困難を抱える方への支援検討など会議を通じた地域課題の抽出や、ネットワークの構築につながっています。子育て支援センターやファミリーサポートセンターについては育児中の保護者の孤立防止や育児相談など、地域における子育て支援の拠点施設として機能しています。

事業によってはコロナ禍の影響を受けているものもあり、今後の事業継続に向けて検討する必要があります。

■前計画における数値目標と推移

成果指標	前計画における 目標値 (令和3年)	推移			
		平成29年	平成30年	令和元年	令和2年
地域ケア会議の開催回数	40回	26回	28回	20回	12回
障害サービス利用率	19.0%	15.9%	18.0%	19.0%	20.0%
地域子育て支援センターの 利用者数	16,000人	14,274人	15,318人	15,551人	12,787人
ファミリーサポートセンター 会員数	180人	204人	153人	144人	163人

④基本施策2-4 福祉サービス利用者の権利擁護

第3次計画では、地域生活支援センター「ふらっとホーム」を拠点とした日常生活自立支援事業（地域福祉権利擁護事業）の実施と普及・啓発や、成年後見制度の利用促進に取り組んできました。日常生活自立支援事業（地域福祉権利擁護事業）の利用人数は増加傾向にあり、また高齢化による認知症高齢者の増加に伴って権利擁護制度の活用が必要なケースが増えています。

令和2年度より成年後見制度利用促進事業によって中核機関を高齡福祉課地域包括ケア推進室内に設置していますが、専門的助言を必要とする課題も多いため、弁護士等専門職と連携した相談体制を整備する必要があります。

■前計画における数値目標と推移

成果指標	前計画における 目標値 (令和3年)	推移			
		平成29年	平成30年	令和元年	令和2年
日常生活自立支援事業（地域福祉権利擁護事業）の利用人数	45人	34人	31人	34人	40人
権利擁護（成年後見制度等）に関する相談件数	20件	36件	29件	20件	23件

(3) 基本目標3 自助・互助・共助を高める

①基本施策3-1 心のバリアフリー化の推進

第3次計画では、福祉体験活動や地域福祉に関する学習機会の充実、障害者や認知症高齢者など地域で暮らす様々な人に関する人権意識の向上に取り組んできました。一方で、広報・啓発を行っていてもなかなか人権への意識づけが浸透していない状況にあり、地域の人に参加しやすい企画や、認知症を正しく理解し見守る応援者を増やす取組が求められています。

また、昨年度策定された第6期障害福祉計画及び第2期障害児福祉計画では障害者の地域移行を進めることとしており、そうした観点からも引き続き心のバリアフリー化を進める必要があります。

■前計画における数値目標と推移

成果指標	前計画における 目標値 (令和3年)	推移			
		平成29年	平成30年	令和元年	令和2年
人権フェスティバル参加者満足度	85.0%	—	81.3%	100%	88.0%
人権教育セミナー参加者満足度	90.0%	83.7%	85.5%	100%	87.1%

②基本施策3-2 ボランティア活動の活性化

第3次計画では、協働意識の醸成やボランティア活動の普及と質の向上に取り組んできました。一方でボランティア登録数は高齢化の進行により減少傾向にあり、今までのボランティアグループ主体の活動スタイルを見直す必要があります。

今後のボランティア活動の活性化に向けて、ボランティアが活躍できる場づくり及び参加できる機会の更なる充実、市民がボランティア活動に興味を持てるような企画などが求められます。

■前計画における数値目標と推移

成果指標	前計画における 目標値 (令和3年)	推移			
		平成29年	平成30年	令和元年	令和2年
ボランティア登録数	540人	462人	504人	488人	487人

③基本施策3-3 地域全体で支え合う体制づくり

第3次計画では、地域の活動拠点の充実や住民交流の促進、社会的孤立を防ぐための社会参加の機会づくり等に取り組んできました。また、市民協働のまちづくりを推進するため、地域協働体の設置を推進し、地域の課題解決に向けた取組を支援しています。

一方で、地域の担い手の高齢化や減少が進んでおり、サロンなどの活動拠点の維持が難しくなっている地区もあります。支え合う地域づくりに向けて、地域を担う人材の発掘及び育成や、高齢者サロンだけでなく障害分野や子育て分野など様々な人が集える場を充実させていく必要があります。

■前計画における数値目標と推移

成果指標	前計画における 目標値 (令和3年)	推移			
		平成29年	平成30年	令和元年	令和2年
地域協働体設置面積の 全市に占める割合	75.0%	65.0%	65.0%	75.0%	80.0%
NPO認証数	25団体	24団体	24団体	24団体	21団体

